

Vol.25
静岡文化情報
街かど

MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団

あの日あの時／路地裏散策

きよみずさん通り

特集

映画のあるまち



Information

(財)静岡市文化振興財団インフォメーション
静岡アートギャラリー
エルミターージュ美術館名作展 花の光景

あの日あの時



▲音羽町清水寺入口(昭和30年代)

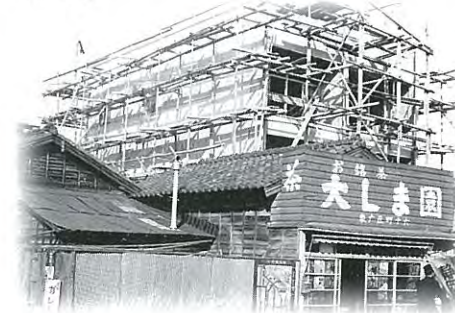
きよみずさん通り
kiyomizusan-douri



▲清水山公園内(戦前)

「きよみずさん通り」といえば、やはり清水寺と清水山公園のことが中心に思い出される。

清水山公園は、明治42年に誕生した県下で最初の市立公園で、背景に谷津山をおき、春の桜、夏の例大祭など四季折々の風景や整備された園内が、昔からいこの場、楽しみの場となっていた。



▲きよみずさん通り、建築中の建物は村松園芸(昭和39年)

戦前の清水山公園の思い出で、特に地元の人たちの印象に残っているのは、ここに動物園があったことだ。昭和7年から15年ころの話で、動物園といっても七面鳥や猿などの鳥や小動物の檻が並ぶ簡易なものだったが、ちゃんとお金を払って入園していたらしい。その他園内には、現音羽町交番の後ろあたりに卓球場があり、JOPKのラジオ塔からは放送が流れ、元巨人軍の川上哲治や沢村栄治が出場した全国中等野球大会の放送を皆こぞって聞き、その活躍に熱中したそうだ。

当時の子どもたちは、清水寺を拠点によく遊んだ。水雷駆逐、馬けり、コマ遊び、棒野球などがおもしろい遊びだったが、手ぬぐい

一つあれば新しい遊びをつくりだす遊びの達人だった。子どもたちの中には必ず大親分がいて、子どもの世界ながらもヒエラル

キーが存在した。また、清水寺には当時、小坊主が二人おり、小坊主とはいえ、遊びたいさかりの彼らも仲間に加わり、時にはこの小坊主の手引きで本堂に侵入することもあったという。

戦後になると、このあたりには駄菓子屋がたくさんできた。公園内にも、夏には藤棚あたりでアイスキャンデーが売られ、現音羽町交番の後ろにもアイスキャンデーやおでんを売る店があった。公園内と外では値段が若干違い、子どもたちは串にささったおでんの具の数と値段をしっかりと値踏みしていたそうだ。

公園といえば、音羽公園のあたりには火力発電所の廃墟があり、そこに残るコークスを拾って遊んだ思



▲静岡工業高等学校グラウンド沿いの道(昭和39年)

戦前の清水山公園の思い出で、特に地元の人たちの印象に残っているのは、ここに動物園があったことだ。昭和7年から15年ころの話で、動物園といっても七面



▲静岡工業高校グラウンド沿いの道、村松園芸の仮店舗前(昭和39年)



▲春日三丁目にあった火葬場入口(昭和28年)



▲昭和初期の井出写真館 隣に見えるのは高木裁縫女学校の門

い出を持つ人もいる。また、春日三丁目には火葬場があり、清水寺の門の脇に火葬場に続く道があった。清水山公園で遊んでいると、亡骸をリヤカーに載せた葬列に出会う、造花をもらって葬列についていくと、安立寺で造花と引き換えに見送りのお礼のお菓子をくれたそうだ。

きよみずさん通りには、めずらしい商売があった。油紙を扱うきよぎや経木屋、馬にリヤカーを引かせる運搬業の



▲井出写真館前、後に見えるのは谷津山(戦前)

馬力屋などがそれで、職人さんたちも多く住んでいたという。また、昭和30年頃には、現くすり自然堂のあたりに映画館ができた。

いつからきよみずさん通りと呼ぶようになったか地元の人の間でも定かでない。この通りはその名の通り、清水寺・清水山公園のある通り。最近では、周辺にマンションが増えてはきたが、通りを歩き、ふと見上げると谷津山の緑が目に入る穏やかで落ち着いた通りである。



路地裏散策

きよみずさん通り



「きよみずさん」の名で親しまれている清水寺。そのお寺の前を南北に走るこの通りは、谷津山の緑を感じさせ、自然にも歴史にも恵まれた道だ。そして、この道は、古代・近世東海道と中世東海道(北街道)を結んでいる。



1.道の話

東海道が時代によって変遷したのをご存知だろうか？
1994年、曲金の旧国鉄貨物駅(東静岡駅)跡地から長さ350メートルに渡り、古代の東海道が発見された。曲金北遺跡と呼ばれるこの道は、奈良から平安時代にかけて使われた東海道で、「息津駅(興津清見寺あたり)~横田駅(横田町あたり)」を結び丸子へ繋がる直線道路だと推定される。この道は平安時代に入り、律令制の崩壊から道路管理が困難になったこと、そして平安海進によって地下水位が上昇し、湿地化が進んだことで10世紀には使われなくなった。鎌倉時代以降、近世初頭まで「府中」~「興津」間は北街道が中世の正式な東海道であり、古くは「北海道」と書かれ、古代東海道の北の道という意味ではないかといわれている。
近世に入り、徳川家康公が駿府城を築城、城下町を形成すると、軍事上の理由から東海道のルートが変更される。これが、現在旧東海道と呼ばれ、五十三次の宿場を持つ近世東海道で、「府中横田」~「江尻」~「興津」にいたる。「きよみずさん通り」はこれらの道を南北につなぎ、国府につながる古代の古道の可能性を示唆する説もあるが、清水寺のすぐ南に府中宿「横田見付」があったこと、横田町と古代「横田駅」の関係など、なにやら重要な意味を感じさせる。

2.手づくりの店 ねこじゃらし

きよみずさん通り沿いにある、手作りの品を扱うお店。2003年12月8日、園田寿子さんと谷川英代さんの2人でお店を開いた。以前からものを手作りする人が周りに多くいたことがきっかけだったそうだ。
店内は素朴な温かさのある手作り小物が所狭しと並んでいる。商品は委託販売で、手作りの品ならばジャンルは問わないとのこと。布小物から食器、和服のリフォーム品まで幅広く扱っている。古い着物も置いていて、そのまま着てレトロでモダンな気分になるもよし、リフォームして別のものに作り変えるもよし。古布も扱っている。
手作りの持ち込みは大歓迎だそうだ。腕に自信のある方は、出来上がった品を持ち込んでみては？



3.cafe BANANAFISH(カフェバナナフィッシュ)



2004年4月にオープンした白い一軒家のカフェレストラン。
お店の名前は、オーナー夫妻が大好きなサリンジャーの短編『バナナフィッシュにうってつけの日』から。一家で楽しんでもらえるようにとメニューも豊富。ランチ、ディナーの食事の他、アルコール、スイーツそして、離乳食まで用意されている。「ベイビーカフェ」と名づけられたこの離乳食メニューは、子どもの離乳の進行に合わせて、「りんごと人参のピューレ」「白身魚と緑黄野菜のペースト」など単品を選ぶもの。三児の母であるオーナーならではのうれしいサービスだ。
毎月模様替えされる店内のショーウィンドーや、「シロワッサン」と題された不定期コラム新聞にもお客様への心配りが感じられる楽しいお店。



4.太田町市場

店先に並ぶ豊富な野菜・果物を見るといってもうれしく、庶民の台所を預かる「市場」という名にふさわしい活気が感じられる。
きよみずさん通りは随分変わったが、「太田町市場」はこの場所にて、「かれこれ80年たつ」そうだ。現在の経営は(有)ワラシナの皆さん。もともとは八百屋さんだったそうで、野菜コーナーもお客様と対面式で買い物ができるようになっている。野菜を挟んでお客様と売り手が野菜の品定めをしたり、時にはちよとした愚痴を聞いたり、世間話に花を咲かせたり…まさに生活のにおいに満ちた昔ながらの八百屋さんの雰囲気だ。
店内には、野菜・魚・肉などの生鮮食品の他、お惣菜コーナーがあり、お惣菜は新鮮な野菜を使った自家製、漬物もお店で漬けている。お惣菜1人分を1パックにしたサービスや、曜日ごとに種類を変えた食材を10パーセント引きするサービスも行っている。
「食は力」。豊富な食材と市場の活気が元気をくれる。

5.和洋菓子舗 十一屋

おばあちゃんがいつも店番の「和洋菓子舗 十一屋」。店名の「十一屋」は、徳川慶喜公にお菓子の値段を1割おまけして届けていたことからいただいたものだから…。
お菓子はすべてお店の手作り。
和菓子・洋菓子ともにお手頃で種類も豊富。
2月半ばには、落雁でできた「菱餅」「雛あられ」、牛皮と砂糖でできた「さくらんぼ」などお雛様用のかわいらしいお菓子が店頭並び、季節を感じさせていた。



【瓦場町の由来】

清水山の東側の山すその一角を瓦場町と呼ぶ。ここは、徳川家康公が駿府城を築く際、城郭の屋根瓦を焼くため、三河国渥美郡(愛知県渥美半島)から瓦職人を呼び寄せ、住ませたところで、自然に「瓦場」と呼ばれ、江戸時代小字名となったのを、そのまま町名とした。
現在も渥美姓を名乗る家が多く、40年ほど前までは瓦工場があったそうだ。

6.村松園芸 村松文彦さん

「花に言葉はいらない」。

フローリスト村松文彦さんは、「人と人の心の架け橋にもっと花を使ってくれたら、人間同士の摩擦は解消される」と熱く語る。世界一のフラワーデザイナーは、静岡をこよなく愛する花のスペシャリスト。村松さんの出版する本では、撮影場所として随所に静岡を取上げ、地元をアピールすることに精力的である。

ところで、村松家には「先読み・先取り」の気風が流れている。祖父は両替町で造り酒屋を営んでいた。父の故・朝四さんは勤め人であったが、温室の洋ラン栽培の趣味がきっかけで、昭和30(1955)年「村松園芸店」を創業した。当時、市内に園芸店は殆どなく、珍しさも手伝って、仕入れが足りなくなる程の売れ行きだった。暫くして母のきく子さんも店の片隅で切花を扱うようになったが、やはり花屋も珍しく、よく売れたようだ。しかも、きく子さんは「花屋は、生け花と冠婚葬祭さえやればよい」という時代、「他の店と違うことをやりたい!」と東京のフラワーアレンジメント学校に通い始める。そして、静岡初のフラワーアレンジメント教室設立に情熱を傾けた。開校当初は、静岡の花屋さんがこぞってレッスンを受けに来たそうだ。

この「先読み・先取り」の気風は村松さんにも受け継がれていく。少年時代「やるんだったら、世界一になれ!」と父から教えられた村松さんは、持ち前の明るさと自由奔放さで単身アメリカへ。生活の中に花が溢れ、ごく当たり前に花が使われていることに驚かされ、フラワーアートの魅力に引き込まれていく。そして、ついに1989年インターフローワールドカップで日本人初のチャンピオンに輝いた。その後は長野オリンピックのブーケデザインや浜名湖花博の企画など、世界を舞台に多忙な日々を送っている。

さて、「きよみずさん通り」について、「少年時代から大好きだったきよみずさん、街の活性化に尽くしたい」。ここはぜひ、地域の団結で新しい街づくりを期待したい。「先取り・先読みの達人」の腕の見せ所になるかもしれない。



7.絵画堂

店先の緑が、落ち着いた雰囲気をもたらし出している。1月に訪れると、レモンの木に実がたわわになり、店のしゃれた目印となっている。

「絵画堂」という画材屋そのままのシンプルな名前は、「初めて描く方が尻込みしないように、気楽に来店してほしいから」。

絵の具・筆・キャンパスなど描くこと中心の画材がそろそろ他、絵を額に入れてもくれる。客層も広く、初心者の方の画材選びの相談はもちろん、美大を目指す美術研究所の学生も画材の相談にやってくる。そして、受験や創作の悩みを話して帰っていくのだそうだ。絵の具のつまんだ木の作り棚が並ぶこのお店で、母親のようなオーナーと「自分を信じて進むしかない美術という道」を選んだ学生たちの会話は、温かな物語を想像させる。

話を伺っていると、近所の小学生が遊びに来、「きき」と名づけられた野良猫がふらりと入ってきた。どうやら皆、この店の居心地がとても良いらしい。



8.文武武道具専門店

文武武道具専門店は名前のとおり武道具の専門店。剣道具を中心に様々な武道具を扱っている。

二代目店主の村谷武吉さんに話を聞くと、剣道についてあれこれと教えてくれた。年をとっても強くなりつづけることができる剣道は現役時代が長く、生涯スポーツとしても魅力があるのだとか。

そう語る武吉さんは剣道6段、初代店主で父親の文治さんは7段の腕前。もちろんお二人とも現役で、体育館や道場で指導もしているそうだ。

ちなみにこの店、今年で創業38年。きよみずさん通りに映画館があり、地域の中心だった頃からずっと武道具一筋でやってきたのだという。まさに地域に根ざしたこだわりの店なのだ。



11.元長寺

清水寺を創建した朝比奈丹波守元長が永禄2(1559)年に開山し、自らの名を冠して寺名とした。

朝比奈氏は、岡部朝比奈郷を本拠にした鎌倉時代以来の名家で、今川氏に仕え、重臣として用いられた。朝比奈元長の妻は今川義元公の娘である。

谷津山の北麓一帯は朝比奈屋敷と呼ばれ、朝比奈氏の所領だったと考えられ、沓谷の長源院も朝比奈氏の開基である。

白山神社…元長寺の門前にある瓦場町の鎮守。

地藏堂・庚申塔…元長寺の入口に地藏堂と庚申塔がある。地藏堂内には「駿河国一國卅八番」地藏石仏と明和8(1771)年の年号がある観音石仏が安置されている。

この地域では珍しい庚申塔は、大正12年に建立されたもの。道しるべにもなっていたらしく「右音羽町へ一丁、左沓谷へ三丁」と刻まれている。



9.陶芸の里「谷津窯」

音羽町交番を過ぎてすぐに陶芸の里「谷津窯」はある。静岡鉄道に乗っているとその名前を耳にすることも多い谷津窯だが、上田松風さんの陶芸窯であり、電動ロクロ主体の本格的な陶芸教室である。もともとサラリーマンだった上田さんが、昭和53年に脱サラして始めた。

練り、成形、削り、素焼き、施釉、本焼きと言った流れをとおして、土から自分だけの形を作っていく、陶芸。今でこそ陶芸も人気の習い事としてその地位を確固たるものとしているが、その当時には陶芸教室などはあまり無く、谷津窯は静岡の陶芸教室の先駆的存在と言える。そのため10年以上教室に通っている方も多く、卒業生は今までに2000人を数え、さらにその中から既に10人ほど自分で教室を開いているというから、窯の歴史がうかがわれる。

上田さんは陶芸をほぼ独学で始めたとはいえ、

今では美術年鑑に掲載されているほど。生徒さんが東京や名古屋、大阪などからも新幹線で通っているそうだ。

下は小学生から上は80歳以上まで、そして初心者の方からプロの陶芸家を目指して作陶している方までと、生徒として訪れる方は様々。しかし教室は本当に自由な雰囲気にも包まれている。和気あいあいと互いに相談しながら制作する人も、土と語り合うようにじっくりと制作する人もいるが、全く違和感がない。

教室は「人と人のつながり」があるところが楽しい、と上田さんは言う。自由な雰囲気でも様々な人が様々につながっていくところが、この窯の魅力と言えそうである。



10.アマノワールド

市内の高校で美術講師を務める天野恭子さん。

10年前に、青年海外協力隊に参加し、ザンビアの大学で陶芸を教えた。ザンビアでの生活を「電気も水道もないけど、幸せなところだった」と振り返る。頭の上にバケツを載せて水汲みをする、普通の大きさの声でも、声のトーンを変えれば遠くの人に届く、電気がないとよく眠れるなど、日本とはまったく違う生活だったけれど、「新しく衝撃があったわけではなく、根っこが増えた感じだった」そうだ。

その根っこは、今もエネルギーをどんどん吸い上げるらしい。天野さんは次から次へとまるで魔法のようにオリジナル作品を創り出す。

それは、校内に捨て置かれたマンドリンケースや玉入れの玉を使ったアート作品、今まで食べたことのない料理、大きな陶芸の穴窯などなど。どれも、ユーモアに溢れ、ナチュラルで、清涼な風の吹く「アマノワールド」。とくと、ご覧あれ!



鼻の頭をなでて…



美術室で作るココナッツミルク汁粉まったりとうまいっ…



日本の学校



ある日の昼食

12.天使の麦



の熱い思いが2003年1月に天使の麦をオープンさせることとなった。

今でこそ天然酵母という言葉は珍しくなくなったが、少し前まで天然酵母のパンは、自然食品を扱う店や限られたパン屋でしかなく、なかなか焼きたてを食べることができなかった。それは「天然酵母によるパン製法は環境によって左右されやすくて手間がかかるから」

とオーナーは言う。しかしあえて原料にこだわる。その姿勢が作り手の姿が見えるパンとなっているのではないだろうか。そしてそこが人気の秘密かもしれない。

パンはおよそ20種類を取り揃えており、特にオススメの一品はイギリスパンとのこと。天然酵母、小麦(国産100%)、塩のみで作られるシンプルなパン。自然の甘味を感じることができるとこの一品、ぜひお試あれ。

パンはおよそ20種類を取り揃えており、特にオススメの一品はイギリスパンとのこと。天然酵母、小麦(国産100%)、塩のみで作られるシンプルなパン。自然の甘味を感じることができるとこの一品、ぜひお試あれ。



13.望月桐タンス



“80歳のおばあさんが花嫁さんに大変身”なにとやらとても興味深い看板。ここ望月桐タンスではこれまで使われてきた桐タンスを新しく再生してくれる場所。

その昔、女の子が生まれると、桐の苗木を植え、嫁ぐ日にはその桐で嫁入りタンスを作るという風習があったと言う。

桐タンスの特徴は、収縮が少なく、機密性が高い。それは桐材が湿気を防ぎ、燃えにくい性質であることによるもの。したがって、毛織物や絹物などの収納には最適である。そしてその桐タンス製作技術は再生することを容易としているのだそう。

今も代々受け継がれているということ、そして、それをまた再生し使い続けること。機能性の良さはもちろんのこと、タンスにまつわる様々な家庭の色々な思いが詰っているからであり、それはやはり桐タンスだからこそできることであろうか。

作業場には、かつて花嫁道具として、そして長年現役で使い込まれたタンスが所狭しと再生を待っている。思いが積み込まれた桐タンス。その思いに応えるべくご主人が真摯な姿勢で再生していく。

15.居酒屋風プチレストランMAX

和洋折衷の豊富なメニューが並ぶ「MAX」。はじめは、洋食中心だったが、近所に暮らす単身赴任の皆さんの要望で和食メニューも増えた。

「お客様との対話から料理ができる」というのが、お店の特長。同じ素材でも、お客様と話しながら、好みに合わせて調理の仕方を変えたり、ソースを変えたりする。そんなサービスが喜ばれ、お客様たちは自分の家のように、隠れ家のようにこの店に集まってくるそうだ。



14.原田表装店

表装＝表具とは、広辞苑によれば「布または紙を貼って、巻物・掛物・書画帖・屏風・襖などを作り上げる」と記されている。

ご主人の原田勉さんによれば、シンプルに「紙を貼る仕事」と言う。しかし、紙を貼るにしてもその貼り方、また、紙の種類など様々。襖一つにしても2枚の紙を組み合わせた、着物の帯と一緒に貼ったり、意匠を凝らせば限りがない。

店内の襖のサンプルには、押し柄や繊維、楮の入った紙が貼られたものがあり、また、襖の手かけの形も月や草木をデザインしたものなど様々。伝統工芸の持つデザイン性の高さに改めて驚かされる。

襖を変えることで部屋の雰囲気もガラッと変わること間違いなし。いつも見慣れた家の襖を見直してみるのも良いのでは？



16.Fossette (フォセット)

清水山公園前のパン屋さん。2002年11月、静岡市内で修行を積んだ西島協作さんが独立して店を構えた。店側の主張やこだわりを前面に出すというよりはお客様の好みを大事にするという優しさを感じるお店。子供からお年寄りまで誰にでも喜んでもらえるよう50種類の焼ききたてパンを取り揃え、若いスタッフが元気良くお客様を迎えてくれる。



【なつかしいもの発見】

「DPショップIDE」に残っていた写真の乾板。大正10年から昭和20年頃まで使っていたもので、ガラスやセルロイドに写真乳剤をぬったもの。蛇腹のカメラに入れて、撮影したそうだ。

ショップ店長の井出明さんが見様見まねで焼き付けたところ、時代を思わせるモノクロ写真が浮き上がり、当時の風俗を垣間見せた。

「DPショップIDE」のお隣は、戦前は裁縫女学校だったそうで、門だけは当時のままだそう。静鉄の線路から清水寺の間は、戦災を免れたので、当時の面影を残すお宅も残っている。散歩しながらさがしてみたいか？



17.広田鳥肉店

今や静岡市内に2件しかない鳥肉専門店。戦前から鳥肉を扱い、現在は、地鶏、味わい鶏、三河鶏のほか、鴨、七面鳥も扱っている。

専門店だけあってその鳥肉の味はとてジュシー。



19.宮崎靴店



50年程前から店を構える宮崎靴店。普段履きの手頃な靴から長靴、傘、昔ながらの雪駄や草履を扱う町の靴屋さんだが、実は、ダンスシューズも扱っている。ダンスシューズの種類は様々、社交ダンス、フォークダンス、スクエアダンス、ジャズダンスとそれぞれのダンス専用の靴があり、踊りやすく足の形に合わせてオーダーでつくこともできるが、靴の在庫も豊富にあるのでその場で手に入れることもできる。需要の少ないダンスシューズを扱うお店は市内でも珍しく、居合わせたお客様も「ここ以外は知らない」とのこと。どの靴もダンスシューズというだけあって、ラメなどの光物で華やか、眺めると靴音が聞こえてきそう。

21.寄りあいの庭

静鉄音羽町の踏み切りを渡ってしばらく歩くと、花や陶器を飾り、和風に設えた一角が目に入る。「寄りあいの庭」と看板が置かれたこのスペースは、マルヒラ呉服店が、かつて店舗兼住宅に使っていた建物をミニコンサートや美術の個展など多目的に使えるよう貸し出しているもの。



昭和23年築の建物の中を、白熱灯が照らし、神棚が飾られ、何とも落ち着いた、いい雰囲気。空いている時は使わせていただけるそうなので、オリジナルの企画を催してみるのも良いのでは？



18.そば処岩政

昭和元年創業。店に入ると、ぷんとそばつゆのいいにおいが…。「岩」のつくおそば屋さんが多いけど、ここは一代目の政次さんが、梅屋町にあった岩井屋で修行したのだそう。



20.音羽公園

戦前、このあたりに火力発電所があったそう。現在は象を思わせる滑り台とアザラシとサイとカバの置物があるかわいらしい公園。

そういえば、この3匹、40年はここにいないなあ…。



22.陶芸工房 朝(あした)



清水山公園から谷津山を登り山頂を北側に降りていくと、山裾に見えるのが陶芸工房 朝(あした)。山野草で彩られた庭に目を移し、谷津山から訪れる野鳥の声に耳を傾けると一時街の喧騒から離れ日常のわずらわしさを忘れることができる…と書くときまどで人里離れた山の中のような印象を受けてしまうが、ここは静岡駅から徒歩15分。きよみずさん通りからほど近い瓦場町の住宅街の一角である。

中心街の徒歩圏とは思えないほど自然が溢れるこのスペースは、オーナーの寺田朝子さんが2002年にオープンさせた陶芸のアトリエとギャラリー。「朝」の名はロバート・ブラウニングの詩を上田敏が翻訳した「春の朝」からの引用にオーナーの名前を重ねたものなのだそう。

コンセプトは「クリエイティブな暮らしの提案とコミュニティネットづくり」。アートそのものよりも、むしろそれに関わる「人」に重きを置いたものだ。そのためか、アトリエは緊張感がみなぎる作業場というよりも、人が集まり楽しむやわらかな創作の場というべきもの。取材の時にアトリエで成形の作業をしていた方も、お客様というよりお友達に近い様子。寺田さん曰く「普通の陶芸教室のような先生が生徒を指導する形ではなく、みんなで一緒にやっっていく雰囲気になりたい」とのこと。

ギャラリーも、展示販売のためというよりは豊かな自然とアートを楽しむためのスペース。気の合う仲間とお茶をいただきながら、谷津山の自然と数々の作品、そして語らいのひとときを楽しむ…そんなシチュエーションがよく似合う。

オーナーの想いと哲学が形となった陶芸工房 朝。そこには「陶芸のアトリエとギャラリー」の一言では表現しきれない魅力がある。



25.珈琲の店あらんど



2002年の9月にオープンし、最近ではすっかり街に定着した喫茶店。散歩の途中で寄ってくれる近所の人や通勤途中に店を発見して寄ってくれるお客様が多いとか。

店主の前澤敏さんの経歴がまた、面白い。十代から山に魅せられ、静岡ガンマー山岳会に所属。会長の故岡本滋氏のもと山岳ガイドブックも発行した。山の魅力は年齢によって違う。「20代は山男。30代は一流の登山家を目指し、40代は夢破れて登山者。50代は散歩人、60代は遊山人、70代は山道楽」だとか。現在の前澤さんは「山から見れば自分はよそ者。お邪魔しますという気持ち」で登っているそうだ。お店のコーヒーにも山で炒れたコーヒーの味が生きている。

店内に流れるのは、ラテン音楽。若かりし日、友人と「中南米音楽同好会」を結成、レコードコンサートを月1回開いたほど大好きな音楽だ。また、3年間に映画を千本観たこともある映画好き、その多趣味から話題にはことかかないが、「お客様からいろいろ話が聞けて面白い」とも言う。お客様の一人である駿府博物館学芸部長安本収氏が作成した谷津山散策地図もここで手に入り、谷津山周辺の歴史・見所を知ることができる。

24.将棋クラブ清水会



清水山公園の昼下がり、のどかに、そして、真剣に将棋盤を囲む男性諸氏。清水山公園の風物の一つともなっている「将棋クラブ清水会」の皆さんは、昼を過ぎると三々五々に集まり、将棋を打ち始める。

まとめ役である会長の足立匡広さんを中心に将棋大会を催すこともあるが、基本的には自由に来て、自由に帰って行くのが決まり、そして、通りすがりに対局をのぞいて入会してしまう人もいてという気ままだが心地よい。

とはいえ、将棋好きの集まりらしく、雨の日にも傘をさして対極したとか、朝まで将棋を打ちつづけたなどの武勇伝もあり、この会は、昭和30年代から、かれこれ半世紀にわたりこの場所で続いているというから驚いてしまう。

2月の初め、かなり寒い日にも10名ほどの仲間が集まってきた。厚手のコートに背を丸めながらも将棋を打つ。将棋は「運だけでなく、頭を使うから



面白い」そうだ。将棋用のテーブルの脇に市内で一番最初に花を咲かせる桜の木がある。春になれば、桜の花の下で将棋を打つ。清水山公園の四季折々の中での対局はなんと楽しいことだろう。

23.清水寺



「きよみずさん」の名前で親しまれている清水寺は、室町時代の永世年中(1504~1520)、印隔法師が開いた檀林(学問所)の古地に永禄2(1559)年、今川義元公が、今川氏輝公の遺志を受け、朝比奈丹波守元長に創建させた市内でも珍しい真言宗のお寺である。開山は、京都より迎えられた尊寿院大僧正道因と伝えられ、山号・寺号ともに京都の清水寺と同じ「音羽山清水寺」であるのが興味深い。これは、清水寺からの駿府の町の眺めや、谷津山を背景にした地形が京都、東山に似ていることからといわれているが、清水寺創建には、氏輝公・義元公の母であり、京都より今川氏へ嫁いだ寿桂尼の京への思いが働いたともいわれる。



日華親善堂

その後、徳川家康公はしばしば清水寺を訪れ、慶長7(1602)年観音堂を建立、公自身の自念仏である千手観音菩薩を納めた。この観音像は、現在、秘仏として33年に1度(今回は2020年)しか公開されていない。観音堂と堂内の厨子は、安土桃山様式



例大祭護摩が焚かれる様子



毎年7月9日は、清水寺の例大祭。市内の先頭をきって「きよみずさんの花火」があがり、夏を告げる。この日は、珍しい「参詣行列」があり、僧侶に先導された参詣行列が清水山正門から観音堂にすすみ、護摩が焚かれる。また、きよみずさん通りには屋台が並び、夏祭りらしい賑わいをみせ、街の人たちを楽しませている。

清水寺文学散歩

清水寺境内には、明和7(1770)年駿遠地方の俳壇「時雨窓」一門により建てられた松尾芭蕉の「駿河路や花たちはなも茶の匂ひ」の句碑がある。当時の住職・通賢は俳号を持ち、山村月樂に師事していたとか。芭蕉の句碑のほかにも「時雨窓」一門の句碑が11基ほどあるので、ぜひ探してみよう!



清水寺歴史ロマン

- ①江戸時代ここに虚無僧がおり、尺八を吹いて全国を渡り歩いていたのをご存知だろうか?観音堂の横に禅宗の一派、普化宗の虚無僧小栗一角斎の墓が残り、当時清水寺には、普化宗の福聚山無量寺があったそうだ。
- ②清水寺の背後にある谷津山には、いくつかの古墳があり、中でも谷津山1号墳は県下でも最古の古墳の一つで駿河中部に強力な勢力を誇った大王墓と推定されている。
- ③清水寺の創建を平安期に求める説もある。清水寺が創建前に存在したことを示す「言経脚記」があること。山号・寺号が共に京都と同一なことからそのような説が言われる。

様々な歴史に彩られた清水寺。その歴史に思いを馳せながら、散策してはいかが。

「JOPKこちらは静岡放送です」

「JOPK」とかかれた常夜燈型の塔が公園の一角に建っている。昭和6年谷津山山頂に建てられた2本の鉄塔から電波を受信し、NHK静岡放送が開局の第一声「JOPKこちらは静岡放送です」を流したラジオ塔。



清水寺あれこれ

梵鐘一時の鐘一

駿府で時を知らせる鐘の音が聞かれるようになったのは、寛永12(1635)年のこと。両替町に鐘樓を置き、それまで城内で鳴らされた太鼓に代わって、午前・午後の6時に鐘がつかれた。明治4年、鐘樓が札の辻に移転。明治22年には正午に1回鐘をつく正午の時報がはじまった。こうして市民に親しまれた時の鐘だが、明治25年の火災に巻き込まれ、その後約20年間ほうっておかれることになる。明治44年、清水寺の檀家総代がこれをみかね、念入りに改鑄し、清水寺に移した。その後、戦中の金属供出を経、現在、清水寺にある鐘は、昭和24年復元されたもので、移転の経緯が鐘に刻まれている。



清水山公園

休みの日には親子づれで賑わい、春には桜が彩る。背後の谷津山は、ハイキングコースとしても市民に親しまれている通称「清水公園」は、明治42(1909)年12月21日に誕生した県下第一号の市立公園だ。公園開設には、静岡輸出茶の功労者で、茶業組合会頭であった大谷嘉兵衛翁が、当時のお金で3,000円を寄附し、公園整備に尽力したことから、現在も公園内に大谷嘉兵衛翁像がたっている。ちなみにこの像は再建。大正5年に建てられた最初の銅像は戦中の金属供出で戦地へ、台座は駿府公園「やすらぎの塔」の台座となっている。





▲ きよみずさん通りにあった城東劇場(昭和43年頃)

特集：映画のあるまち

きよみずさん通りには昭和20年代後半から40年代にかけて二軒の映画館があった。東映系の南風座と、大映・松竹から洋画まで上映していた城東劇場である。現在の街並みから考えると、まさか映画館があったとは想像できないかもしれない。

映画はかつて人々にとって最大にしてほとんど唯一の娯楽であった。

戦後の焼け野原に雨後のタケノコのように林立した映画館は、昭和35年頃にその最盛期を迎える。全国の映画館数は7000館を超え、映画館入場者数は当時の日本人口の約10倍である年間11億人に達した。それに見合うだけの作品数もあり、毎週1、2作の新作が発表されていた。当時の映画は今ほど長いものではなかったとはいえ、未曾有の大・映画ブームであった事がわかる。



静岡(旧静岡市)でも最盛期には30近い映画館が存在した。今ではあまり想像できないかもしれないが、きよみずさん通りの城東劇場と南風座のように、「近所に映画館」というのはあながち珍しいことでもなかったのである。

当時の映画館は、新作を一番最初に上映する封切館(1番館)、その一月後くらいに2番館、さらに3ヶ月から半年後に3番館と言った具合に、作品が下番館に順番に流れていくシステムであった。2番館以降では2、3作品が同時上映され、新作が見られないかわりに実質的な値下げがされていた。封切館は大抵中心街にあったため、どうしてもすぐに見たい作品と言うことであれば、遠方で割高でも封切館に見に行き、それほどでもない作品であれば近所で割安の2番館や3番館で見るというスタイルが一般的であったようである。

現在では作品公開後、しばらくするとレンタルビデオで貸し出し可能となり、衛星放送などのペイチャンネルで放映される。さらにしばらくすると一般の民放テレビで放映される。人気映画であれば繰り返し放送される。また、ビデオやDVDなどのソフトとして購入も可能である。しかし、当時は映画館で見逃せばその映画は本当にもう二度と観ることはかなわなかった。2番館、3番館と言う、いうならば「再放送」システムとしての「ご近所」映画館が存在した理由もここにある。

その後、昭和33年をピークにして、テレビなどの新メディア台頭と反比例するように映画館入場者数も減少していく。2番館・3番館もその必要性を失い、減少していった。静岡における郊外型「ご近所」映画館も昭和40年前後には軒並み姿を消している。さて、映画は廃れてしまったのだろうか。また、それはテレビのせいなのだろうか。

そもそもテレビ・ビデオを始めとするメディアこそが映画を救っているのだ、と言う意見もある。(社)日本映像ソフト協会による調査によれば、ビデオ

などによる推定映画鑑賞人口は7億5千万人と試算されている。また、毎週必ずゴールデンタイムに映画はテレビで放映されている。映画の鑑賞機会それ自体はむしろ昭和30年代より増えていると言って良いだろう。

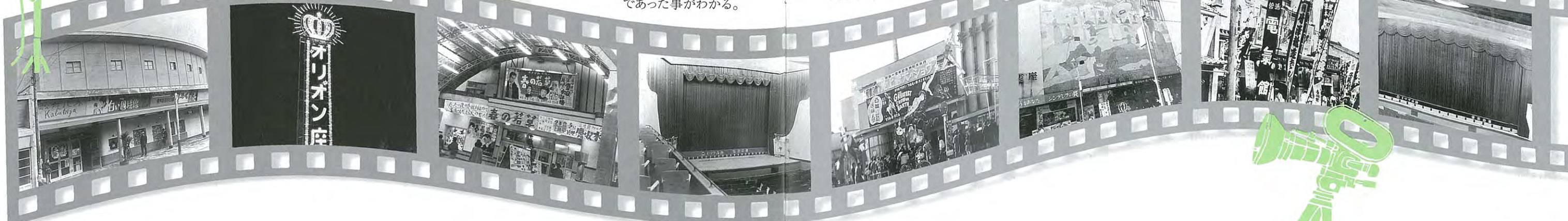
また、最盛期から比較すると確かに映画館の入場者数は激減しているものの、実は1996年に年間入場者数の減少は底をうち、その後緩やかな回復傾向にあるのである。2004年、映画館数はおよそ2800館、年間映画入場者数は1億7千万人となった。この復調を支えているのが、1993年に日本で初めてオープンしたシネマ・コンプレックス(シネコン)である。

シネコンは、10前後のスクリーンを擁し、それぞれが開始時間をずらして設定されているため、少ない待ち時間で映画を楽しめ、作品の選択肢も多く、一般に新しく綺麗で快適であると言うことから世界的に映画館の主流になりつつある。大抵はショッピングセンターや飲食店を併設する大型複合施設で、巨大なビルに様々な施設が入っていて、一日楽しめるその様子はさながら一つの街のようである。

かつて繁華街と呼ばれるところには必ず映画館があり、映画館を中心に街が形成されていると言っても過言ではなかった。このような昔ながらの発展を「横のマチ」と表現するならば、ビル内部に様々な都市機能を包含するシネコンはさしずめ「縦のマチ」と呼ぶことができるだろう。全スクリーン数におけるシネコンの割合は2004年末、全国で62%、静岡県でも既に45%がシネコンとなってきている。

また、ブロックブッキングと呼ばれる、年間放映スケジュールがあらかじめ決定されている従来のシステムから独立し、放映したい映画を独自に放映するミニシアター系の映画館や、日の当たりにくい名画を取り上げた地方映画祭も増えてきている。このように映画は、そのあり方を変えてきている。

どんな街でも、その様子はどんどん変化していくものである。そして、その中で変わらないものもある。街と映画は良く似ている。そして、「マチ」の移り変わりと同様に、映画もまた、そのあり方を変えてきている。しかし、これから作られる新しい「マチ」にも、やはり映画は変わらずあり続けるだろう。



静岡市政令指定都市移行記念

エルミタージュ美術館名作展

花の光景

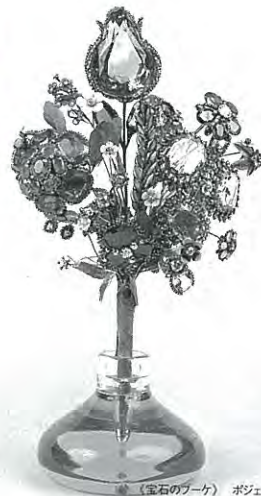
LIFE WITH FLOWERS
花でたどるヨーロッパの暮らしと文化

2005.4.23(土) - 9.25(日)

開館時間/午前10時~午後7時(入館は午後6時30分)
休館日/月曜日(但し7月18日、9月19日は開館し翌日休館)



ГОСУДАРСТВЕННЫЙ
ЭРМИТАЖ



Text: Photograph: Государственный Эрмитаж, Санкт-Петербург, 2005

《帽子をかぶった少女の肖像》 ホアノー(フランス) 1780年代 油彩

《宝石のブーケ》 ポジェ(ロシア) 1863年

平成17年度静岡市政令指定都市移行を記念し、世界最大規模の美術館のひとつであるエルミタージュ美術館所蔵の名作128点[油彩43点、版画50点、工芸品等35点]を展覧します。

本展のテーマ「花」は、私たちにきわめて親しみ深いものです。四季を通じて生活の中に常にあり、誰に対しても同じように美しさを認識させ、生活に充足感を与えてくれます。それだけに、作品のモチーフとしても常に重要な位置をしめ、それぞれの時代に、それぞれの国で、それぞれの作家の作品に「花」が表現されてきました。

そこで本展は移りゆく「花」のイメージを、「宗教・神話と花の象徴」、「肖像画と花」、「静物画の復興と展開」、「花のある風景(17世紀から19世紀)」、「内面化された花のイメージ(19世紀末から20世紀へ)」の5部で構成します。

400年という時代の流れの中で、「心の世界」と密接に結びつき、時代や民族を超え、人々の暮らしや文化を支えてきた「花」をテーマとした本展を心ゆくまでお楽しみください。



エルミタージュ美術館
ロシア、サンクトペテルブルクにある所蔵品300万点を誇る世界最大規模の美術館。ロマノフ王朝期の18世紀、エカテリーナ2世によりその基礎は作られた。一つの作品に1分間立ち止まることで見終わるのに5年間はかかると言われる。また、緑色の外観の建物そのものが第一級の芸術品であり、世界遺産としてユネスコから認定されている。

第2期 前売り券発売中!

一般/1,200円、大高生/800円、70歳以上/800円

Shizuoka ART Gallery 静岡アートギャラリー

〒422-8067 静岡市駿河区南町18-1 サウスポット静岡3階
Tel.054-289-5400 Fax.054-289-5410 URL <http://www.art.shizuoka-city.or.jp>

参考・文・献

- 『駿府清水寺』一境内の堂塔と句碑をたずねて一山内政三著
- 『谷津山』一その周辺の町村と史蹟をたずねて一山内政三著
- 『谷津山』～史蹟探訪とハイキング～田中省三著
- 『東海道と駿府城下町(上)一東海道中核都市の誕生』(社)中部建設協会発行
- 『谷津山散策地図』安本收著
- 『映画館街の人類学』静岡大学人文学部社会学科文化人類学研究室 嶋田義仁編
- 『世界が注目する日本映画の変容』丸山一昭著

■写真・資料提供
海野幸正氏(静岡県写真協会会長)
DPショップIDE
(株)静活
(株)村松園芸
駿府ウェブ

静岡文化情報「街かど」第25号

- 発行(年2回)
平成17年3月
- 編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市葵区呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
E-mail:bunshin@chabashira.co.jp
<http://www.chabashira.co.jp/~bunshin/>

●印刷
株式会社バピア中央
静岡市駿河区小鹿一丁目2番18号

From Editor

編集後記

◆取材で初めて訪れました。静かな雰囲気の中に面白い場所が点在しています。「街かど」片手に歩いてみてください。

◆谷津山が見えるせいか緑豊かなイメージ。春の桜も楽しみです。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材したいと思っています。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

豊かな明日を築く、皆様のネットワークステーション。

静岡県総合研修所もくせい会館 〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1
静岡県職員会館 TEL.054-245-1595 FAX.054-254-1669

健康づくり宣言 応援します。

YURARA

「ゆらら」は、隣接の清掃工場の余熱を利用した温浴施設です。

P 350台 ◎開館時間/10:00~22:00(日・祝日のみ20:00まで)
◎休館日/毎週火曜日
※隣接清掃工場の法定点検中は約2週間の閉館となります。

区分	大人	子供(3歳以上)
全日使用券	1,200円	600円
夜間使用券(18時以降)	600円	300円
回数券(6回分)	6,000円	3,000円
団体使用券(15人以上)	800円	400円
3月使用券	9,000円	4,500円
年間使用券	25,000円(60歳以上)	12,500円

ホームページアドレス
yurarashizuoka.com
〒420-0095 静岡市葵区沼上1379-1 TEL.054-263-3456

東静岡駅北口より 東静岡駅北口より無料シャトルバス運行
無料シャトルバス 東静岡駅 9:20 10:20 12:20 14:20 16:20 18:20

ご利用案内
1日使用 100円
期間使用 100円

中学校3年生のみなさまへ

学校法人 駿河学院	学校名、連絡先など	対象地域	特長	技能連携先
	駿河学院実務専門学校 [*] 〒420-0834 静岡市葵区音羽町19番22号 TEL.054-247-9933 FAX. 054-245-2351 〈URL〉 http://www.suruga-gakuin.ed.jp	静岡市 (旧静岡市域)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習が苦手だけど高校は卒業したい ○実際生活に役立つことを学習 <ul style="list-style-type: none"> ※教養や礼儀など ○少人数で楽しい学校生活 ○パソコンを楽しく学ぶ ○進路指導は将来のことまで考えて ○高等学校卒業資格を取得 	科学技術学園高等学校
	清水学院実務高等専修学校 〒424-0881 静岡市清水区二の丸町58番1号 TEL.0543-65-9933 FAX. 0543-65-6275 〈URL〉 http://www.shimizu-gakuin.ed.jp	静岡市 (旧清水市域)		
	藤枝学院実務高等専修学校 〒426-0017 藤枝市大手1丁目253番15号 TEL.054-641-9933 FAX.054-644-8933 〈URL〉 http://www.fujieda-gakuin.ed.jp	藤枝市 焼津市 島田市 志太郡		
	静進情報高等専修学校 〒420-0834 静岡市葵区音羽町26番31号 TEL.054-200-5515 FAX.054-200-5516 〈URL〉 http://www.seishin-joho.ac.jp	静岡市 藤枝市 焼津市 島田市 志太郡		

※「高等課程 商業科」(中学校卒業生対象)と「専門課程 自動車整備科」(高等学校卒業生対象)を併設しているため「専門学校」の表記を用いています。

高校生のみなさまへ

駿河学院実務専門学校

専門課程 自動車整備科 国土交通大臣指定校
国家試験「2級自動車整備士」資格取得

〒420-0834 静岡市葵区音羽町19番22号 TEL.054-247-9933 FAX.054-245-2351
〈URL〉 <http://www.suruga-car.jp> 〈メール〉 info@suruga-car.jp

専門学校 ノアデザインカレッジ

専門課程 ビジュアルデザイン科
日本中どこでも活躍できるデザイナーに

〒420-0858 静岡市葵区伝馬町8-10 TEL.054-255-7040 FAX.054-255-7054
〈URL〉 <http://www.noah-design.net> 〈メール〉 info@noah-design.net

高卒資格取得を希望する方へ

静岡個別学習センター

科学技術学園高等学校(東京都)の卒業資格を静岡で取得!
(高等学校転学、高等学校中途退学者等対象)

〒420-0858 静岡市駿河区寿町11番32号 TEL.054-202-7055 FAX.054-285-2824
〈URL〉 <http://www.shizuoka-ikusei.or.jp> 〈メール〉 kobetsu@shizuoka-ikusei.co.jp